

## とうろう流し

とうろう流しは、紙でできた灯籠を川に浮かべる行事です。日本各地にあるもので、通常は亡くなった先祖の霊が故郷へ帰ってくるとされる8月中旬のお盆の時期に行われます。とうろう流しの風習そのものは大昔に遡りますが、広島のとろう流しは、第二次世界大戦で命を落とした何百万人もの日本人への鎮魂として1947年に始まりました。

世界で初めて原爆を経験し、夥しい割合の市民が亡くなった広島を考えると、広島市のとうろう流しの行事には特別な意味があり、日本最大規模のうちのひとつになっています。行事は原爆記念日に合わせて、お盆の約1週間前の8月6日に行われます。カラフルなものも多いおよそ8000個の灯籠に、地元住民も訪問者も同様に平和への祈りを書くよう勧められ、それらは安川に浮かべられてゆっくりと流れ、原爆ドームの前を通っていきます。

心を深く打ち、目を魅了し、広島を経験を世界のどこにも繰り返さないとの願いを心に焼き付けるとろう流しの行事は、元安川に架かる橋から眺める景色が最高です。観光で訪れた人が自分の灯籠を浮かべたい場合には、橋の両サイドにある受付テントで午前6時半から午後8時まで購入することができます。行事の開催時間は午後6時から午後9時までです。